

「デジタル防災行政無線の普及促進に向けた調査検討」

第3回調査検討会議事概要

日時：平成24年3月6日（火）15:30～16:40

場所：中国総合通信局 2階 第1会議室

1 出席者 敬称略

構成員（11名）

秦 正治 座長（岡山大学）

高橋 賢 座長代理（広島市立大学）

池田 正（三菱電機株式会社）

石垣 悟（日本無線株式会社）

加藤 数衛（株式会社日立国際電気）

狩俣 恭太郎（一般社団法人電波産業会）

木村 誠宏（モトローラ・ソリューションズ株式会社）

小島 伸二（日本電気株式会社）

中村 治幸（総務省中国総合通信局）

平山 貴代（成澤構成員代理、パナソニックSSインフラシステム株式会社）

福江 朗（岡山県危機管理課）

オブザーバー 1名

竹下 文人（総務省 中国総合通信局陸上課）

事務局

総務省 中国総合通信局 無線通信部 企画調整課

中電技術コンサルタント株式会社

2 配布資料

議事次第

資料3-1 調査検討報告書(案)

資料3-2 調査検討報告書概要版(案)

3 会議次第

(1) 開会

(2) 議事

ア 調査検討報告のとりまとめについて

イ その他

(3) 閉会

4 議事概要

事務局(中電技術コンサルタント)より報告書(案)(資料3-1)及び報告書概要版(案)(資料3-2)の提案を受け質疑が行われた。

○図表4-8等の①~④は何を指すか不明、dBmも付ける必要はない。

○「ゲートウェイ」の表現が異なる意味で何か所かある。誤解を生じない表現が必要。

○T79とT80の通信は、ゲートウェイオプションを介した通信が技術的に可能な状況にあるが、納入実績はない。要望としてはアナログとデジタルの通信が多い。

○ARIB STDから抜粋した個所を明確にした表現がよい。

報告書(案)、報告書概要版(案)とも本日の議論を踏まえた修正を行うこととし、取り扱いは座長に一任することが承認された。

報告が承認されたことを受け、座長から中国総合通信局長に報告書が提出された。

<中国総合通信局長あいさつ>

本検討会への参加、実験機材、場所の提供に感謝。東日本大震災の経験を踏まえ、被害の防止、最小化に向けて総務本省、中国総合通信局がそれぞれ実施した検討会でも防災行政無線は重要な位置づけとなっている。

今回の検討では、2つの方式のデジタル防災行政無線について周波数利用のすみわけを行うことにより、災害応援時等の円滑な運用につながる提案をいただいた。総務省として関係規定の改正に取り組んでいきたい。

以上.